

## 平成 23 年度 第 1 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

### 1 開催日時

平成 23 年 7 月 13 日（水） 14：00～15：30

### 2 開催場所

札幌市役所 14 階 1 号会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小笠原委員、小山委員、山下委員

#### (2) 札幌市職員

財政局理事、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局工事契約担当課長、財政局契約管理課長、財政局技術管理担当課長、財政局建築検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 11 名

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 財政局理事あいさつ

#### (3) 委員長あいさつ

#### (4) 事務局からの報告

ア 入札妨害事件の概要等及び再発防止のための改善策について

イ 政府調達の様況等について

ウ 参加停止措置状況について

エ 工事等発注状況について

オ 工事検査について

#### (5) 平成 23 年度委員会開催予定について

4 回程度の開催を予定しているとして、提案を行い各委員に了承された。

#### (6) その他

#### (7) 閉会

### 5 質疑応答

#### (1) 入札妨害事件の概要等及び再発防止のための改善策について

（小山委員）

最低制限価格の計算にはどのくらいの日数を要するのか。例えば、開札日当日に最低制限価格を計算するようにすれば、事前に漏れることはあり得なくなるのではないか。

（札幌市）

開札日前日に予定価格を決めており、情報が漏れにくくなるための対策は取っている。

（岡田委員）

入札結果内部調査委員会において、一部の業者については、入札結果について更に注視、分析が必要ではないかという意見が委員から出ていたとのことだが、具体的にはどのような意見だったのか教えてもらいたい。

(札幌市)

例えば、最低制限価格と同額入札の件数が全入札の30%を超える者という条件で言えば、この割合があまりにも高い業者がいた場合は、その業者について時系列的に継続して注視していくべきという意見が出ていた。

(蟹江委員長)

工種的な偏りがあると考えられるので、積算が簡単なものとそうでないものとを区別する等、もう少し丁寧な視点で分析することが必要ではないか。

(札幌市)

最低制限価格と同額で落札していた場合でも、くじ引き入札で決定している場合は除外する等、今後は、分析方法についても検討していきたい。

(山下委員)

不正行為に対するペナルティの強化で競売入札妨害の場合、12月以上24月以内であったものを、24月に一律化したとあるが、東豊道路等の入札参加停止措置については36ヵ月となっている。この期間というのは、競売入札妨害の回数等によって増えるということなのか。

(札幌市)

入札妨害だけで24ヵ月、贈賄だけで24ヵ月で合計すると48ヵ月になるが、地方自治法で参加停止措置の上限が36ヵ月と規定されているため、この期間にとどまることになる。

(山下委員)

札幌市において入札妨害で参加停止措置が取られた場合は、他の自治体でも同様に参加停止が取られるのか。

(札幌市)

各自治体によっても基準が異なるため、参加停止期間は同一とはならないが、札幌市と同様に参加停止措置が取られ一定期間、他の自治体でも入札に参加できなくなる。

なお、参加停止措置の期間については、札幌市は全国的に見ても厳しいほうである。

## (2) 政府調達状況等について

(蟹江委員長)

随意契約の内訳でウィズユーカードが出ているが、これは特定の業者からしか調達できないという認識でいいのか。

(札幌市)

そのとおりである。

(小山委員)

平成21年度は、物品の件数が多いが何か特殊な事情があったのか。

(札幌市)

地デジ移行で、学校のデジタルテレビを大量に購入していることが理由と考えられる。

(岡田委員)

平成 21 年度の一般サービスで、件数が前年度と比べて変わらないのに、契約金額が大きく増えている。これはなぜか。

(札幌市)

市立札幌病院の案件で建物総合管理業務というのがあった。これが 1 件で 8 億 6 千万円となっており、この差が大きく出たと考えている。

### (3) 工事等発注状況について

(小笠原委員)

工事のくじ引き入札の発生割合の推移について、札幌市としては、どのように分析しているのか。

(札幌市)

くじ引き入札が増えた背景としては、工事の発注量が減少したことや一般競争入札を拡大したことが理由と考えている。

平成 21 年度と比べて 22 年度のくじ引き入札が大幅に減少したことについては、予定価格の事後公表の完全実施、それからくじ引き回避策を全工種に導入したことの効果があったと考えている。

### (4) 工事検査について

(蟹江委員長)

前年度と比べると工事成績評点が低くなっている。最低制限価格を引き上げたことで、札幌市としては、調達によりコストがかかることになった分、品質は向上していなければならない。そういう意味では、工事成績評点は上がっていないとおかしいのではないか。これについて、札幌市はどう考えているのか。

(札幌市)

平成 23 年度から新しい成績評定で評点を行うことになっており、その前段階として、評点方法についての研修をかなり行っている。その結果、ルールが明確になり厳格化が図られることで評点についても、全体的に厳しくなったのではないかと考えている。